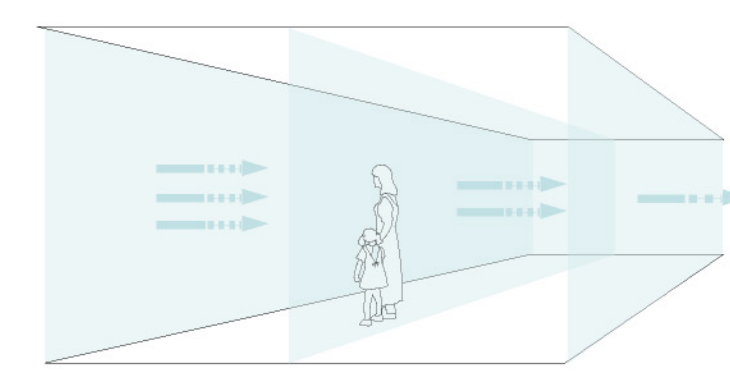


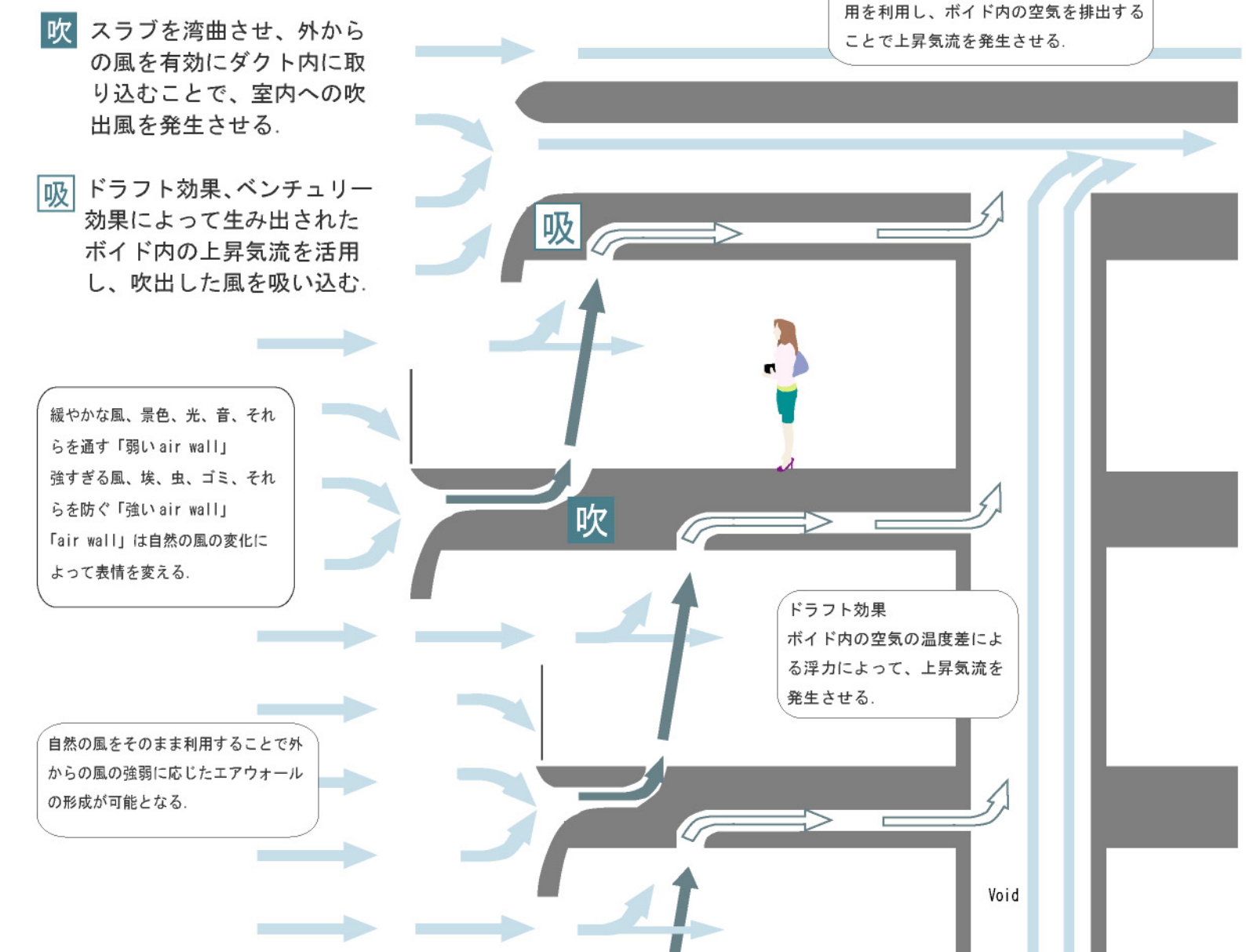
# air wall

エアカーテンの仕組みを応用した風の壁、エアウォールによって風に開かれた建築をつくる。  
 自然に吹く風を使い、パッシブにつくられた限りなく透明に近い風の壁は、目には見えない境界として建築空間を構成する。  
 弱い風はそのまま受け入れ、強い風は風の壁によって弱め、そよ風として建築の奥へと取り込む。  
 風を遮る風の壁を入れ子状に構成することで、建築の奥に向かい徐々に風の感じ方は変化し、場々異なる居心地が生まれる。  
 半屋外空間が積層され、風の壁によって内と外が曖昧になることで都市の環境とゆるやかに連続した建築は、風に開かれた新たな都市の表情を作り出す。



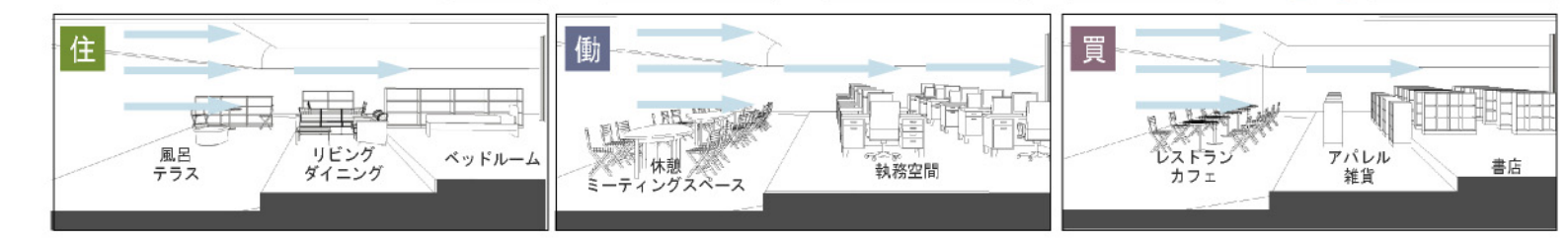
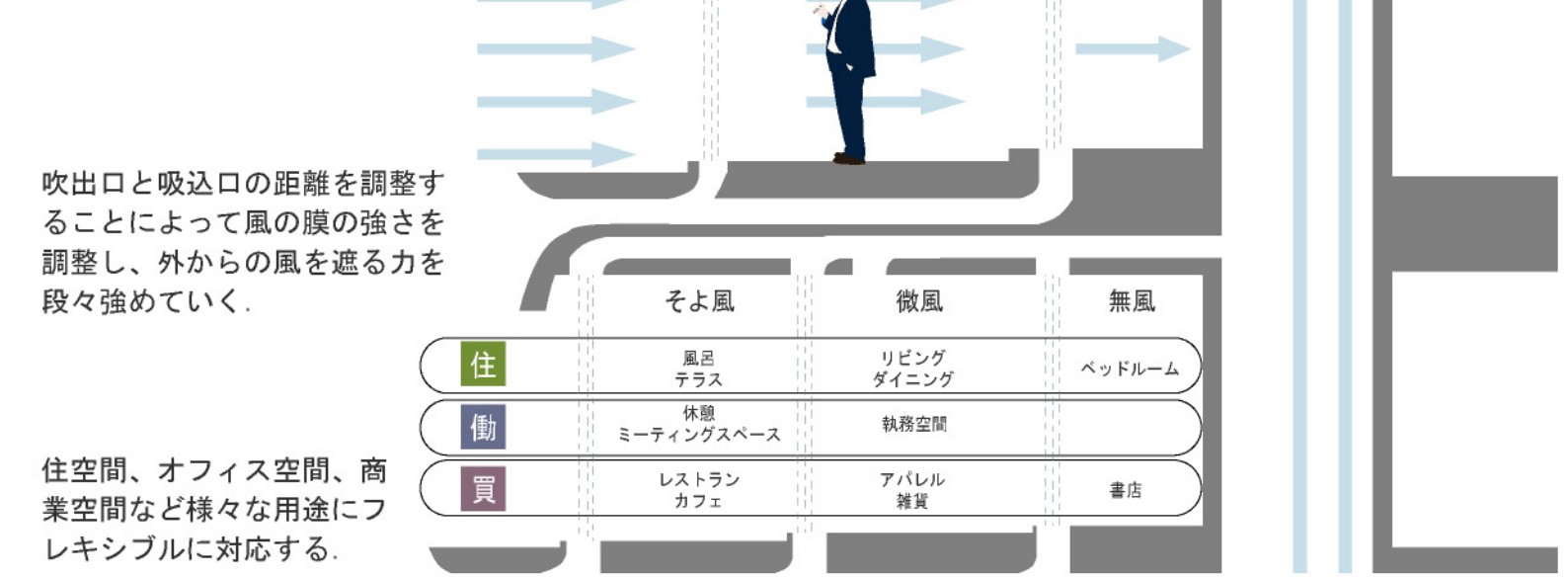
## system

スラブとポイドを利用して吹出しと吸込みの機構を整えることでエアウォールを形成し、それが風の強弱を調整する。



## program

何重にも連なるエアウォールによって風の強さは調整される。取り入れる風の強弱によって空間を分節する。



## urban scale

ひとつのエアウォールが、あるいは連なったエアウォールが、その建ち方で都市に様々な風を運ぶ。  
 【密集市街地】 エアウォールが大きな換気塔の役割を果たして、凝っていた密集市街地に新鮮な風を呼び込む。  
 【水辺・公園】 水辺や公園で冷やされた爽やかな風をエアウォールを通して市街地の奥にまで送り込む。  
 【通り沿い】 通り沿いに並ぶエアウォールは風の道を拡張し、裏通りにも風を呼び込む。

